

こんなお話をします (戦後世代の語り部講話一覧)

2025.1.31 現在

用語	(中国)残留婦人……終戦当時概ね 13 歳以上で中国に残された女性 (中国)残留孤児……終戦当時概ね 12 歳以下で中国に残された子ども (樺太)残留邦人……戦後、現在のサハリン、旧ソ連地域に残された日本人	判明………肉親が見つかった人 未判明………肉親が見つからなかった人 二世、三世…残留邦人の子、孫世代
----	---	--

	語りの対象	主な内容	語り部
①	残留婦人	中国残留婦人、祖母シブの生涯 5 人の子どもを連れて満洲に渡るが夫は現地で召集される。敗戦前後の大混乱を子どもを守りながらぐり抜ける。生きるために中国人と結婚。日本に帰国できない日々の葛藤は 30 年以上も続いた。	二世
②	残留婦人	ある中国残留婦人の満蒙開拓団での体験～何故満洲に行ったのか？なぜ帰れなかったのか？～ 15 歳で満洲に渡った少女は敗戦前後の混乱で難民となり厳しい収容所生活を送る。母親は子ども達を生き延びさせるために娘たちを中国人家庭に預ける決断をする。1970 年代日本への帰国を夢見るが、帰国は中国の家族との別れを意味した。	
③	残留婦人	戦争はどのように人の人生を変えるのか -中国残留邦人山崎幹子の経験から- 敗戦時 15 歳だった少女は生きるために家族と離れ中国人家庭に入る。行方の分からなくなった家族の無事を祈りながら 38 年後、帰国。両親が日本に帰ってきていなかったことに絶望しながらも、生き別れた弟はもしやと探し求める日々を送った。	三世
④	残留孤児・判明	・7 歳の逃避行～命を繋いだ 3 人の恩人～ ・家族を求めて ～興石大仁郎さんの人生～ 東京大空襲で焼け出された一家は満洲に渡る。1945 年 8 月、逃避行中に全ての家族を失った 7 歳の少年は、たった一人で命懸けの逃避行を行う。中国人に引き取られた後も厳しい中国社会を生き抜き 1985 年に帰国。80 歳を超えた今、何を思うのか？	
⑤	残留孤児・判明	ある中国残留孤児とその家族について 敗戦時 8 歳だった少女は親を亡くし兄弟姉妹もばらばらとなって中国人家庭に引き取られる。40 年後に待望の帰国を果たすが、日本での暮らしは家族にとっては新たな苦勞の始まりだった。独り自分の選んだ途に苦しむ。「日本に帰ってきてよかった？」という問いへの答えは？	
⑥	残留孤児・判明	中国残留孤児を語る 逃避行中に一人荷馬車から降りた 8 歳の少年は家族とはぐれてしまう。中国人家庭に引き取られるが生活は貧しく、辛い少年時代を送る。独自の方法で日本の名前を忘れないように唱え続けたことも助けとなって帰国を果たすが、30 年後に帰国した彼の前に言葉の壁が立ちちはだかる。	
⑦	残留孤児・判明	「中国残留孤児」 高田俐の人生 敗戦時の混乱の中、9 歳の少年は中国人家庭に引き取られる。その後激動の中国を生き抜き、約 40 年ぶりに帰国するが日本での生活は？「日本には太陽がない」「来世は鳩になりたい」と語る意味は？	二世
⑧	残留孤児・判明	戦争に向き合い、平和を考える～二つの祖国・中国人を養父母にもつ日本人女性が歩んだ 50 年～ 敗戦時、母は 1 歳の女兒を生かすため中国人に預ける。女兒はあまりにも幼く、記憶の中には家族の姿はなかった。36 年後、日本の親に会うために帰国する。本当の親族と出会うまでには数々の絶望を味わうが、やがて奇跡が起こる。	
⑨	残留孤児・判明	残留孤児として中国社会を生き抜く 逃避行の中で 7 歳の少年は目の前で家族を亡くし、中国人に引き取られる。戦後も政治的激動が続く中国社会で日本人として生き抜くには数々の困難を回避する「生きる力」が必要だった。その力は、日本に帰国した後も発揮される。	
⑩	残留孤児・判明	中国残留邦人の人生を語る - 敗戦時 10 歳であった今村末子さん - 8 歳で家族 8 人と満洲へ渡った少女は、ソ連参戦による逃避行中に両親を亡くす。一番上の姉は家族を救うため、中国人の妻となる。32 年ぶりに帰国を果たすが、全てを捨ててのゼロからの再出発は再び試練の日々だった。	
⑪	残留孤児・未判明	家族を求めて～中国残留孤児「間瀬珠美」の人生から～ 置き去りにされていた日本人の赤ちゃんは中国人夫妻に拾われて育つ。17 歳の時自分が日本人であるかもしれないと知るが、そのことを育ての親には最後まで聞けなかった。1991 年永住帰国。残留孤児とその家族にとって日本はどんな国だったか？	二世
⑫	残留孤児・未判明	終戦から 80 年、今も苦しんでいる人がある ～ある残留孤児が経験した戦後～ 敗戦後、一人の日本人の赤ちゃんが中国人夫妻に引き取られて中国人として育てられる。17 歳の時日本人であることを知らされ、1986 年日本へ永住帰国するも帰国後、思わぬ不幸に見舞われ、絶望の淵をさまよう。その時家族は？	二世
⑬	樺太残留邦人	カザフスタンに残留した日本人の戦後：伊藤實さんの人生 1927 年に山形で生まれた男の子は、3歳で両親と樺太(サハリン)に渡る。戦後もサハリンにとどまるが、19 歳の時仕事上のわずかなミスでシベリアに送られてしまう。その後カザフスタンに移住させられ、70 歳でやっと日本帰国を果たすが、それは新たな家族の離散を生むこととなった。	
⑭	樺太残留邦人 ※現在準備中	サハリン残留日本人女性の戦中・戦後 - 戸倉富美さんの人生から - 1925 年に樺太(サハリン)で生まれた女の子。敗戦時は 20 歳だった。戦後、サハリンはソ連領となり社会体制や生活、使用言語まで大きく変わる。結婚した朝鮮人の夫との生活も苦しかった。日本への帰国の壁は高く、国内では忘れられた存在となる。1990 年代やっと里帰りの門戸が開く。そして永住帰国を果たした時、彼女は既に 84 歳になっていた。	